

# 若者の投票率低下の 原因とその改善

一回生

# はじめに

## 仮説 1

投票率の低下は  
政治不信が原因なのでは？

図 1

■ 非常に理解している ■ 理解している ■ どちらとも言えない  
■ 理解していない ■ 全く理解していない ■ わからない

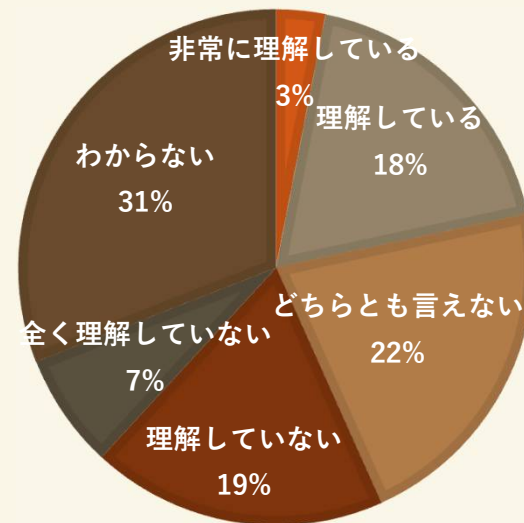


図 2

合計/問3	非常に理解している	理解している	どちらとも言えない	理解していない	全く理解していない	わからない	合計
非常に信頼できる	2	0	0	0	0	0	2
信頼できる	0	16	0	8	0	24	48
どちらとも言えない	0	4	30	24	5	48	111
信頼できない	0	0	3	4	10	0	17
全く信頼できない	0	0	0	2	0	6	10
わからない	0	0	3	0	5	18	26
合計	2	20	36	40	20	96	214

図3 投票者

合計/ 問3	非常に理解している	理解している	どちらとも言えない	理解していない	全く理解していない	わからない	合計
非常に信頼できる	2	0	0	0	0	0	2
信頼できる	0	4	0	4	0	6	14
どちらとも言えない	0	0	15	16	0	24	55
信頼できない	0	0	3	0	5	0	8
全く信頼できない	0	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	6	6
合計	2	4	18	20	5	36	85

図4 棄権者

合計/ 問3	非常に理解している	理解している	どちらとも言えない	理解していない	全く理解していない	わからない	合計
非常に信頼できる	0	0	0	0	0	0	0
信頼できる	0	10	0	4	0	18	32
どちらとも言えない	0	4	15	8	5	24	56
信頼できない	0	0	0	4	5	0	9
全く信頼できない	0	0	0	4	0	6	10
わからない	0	0	3	0	5	12	20
合計	0	14	18	20	15	60	127

# 若者の政治への関心と投票率の関係性

図 5

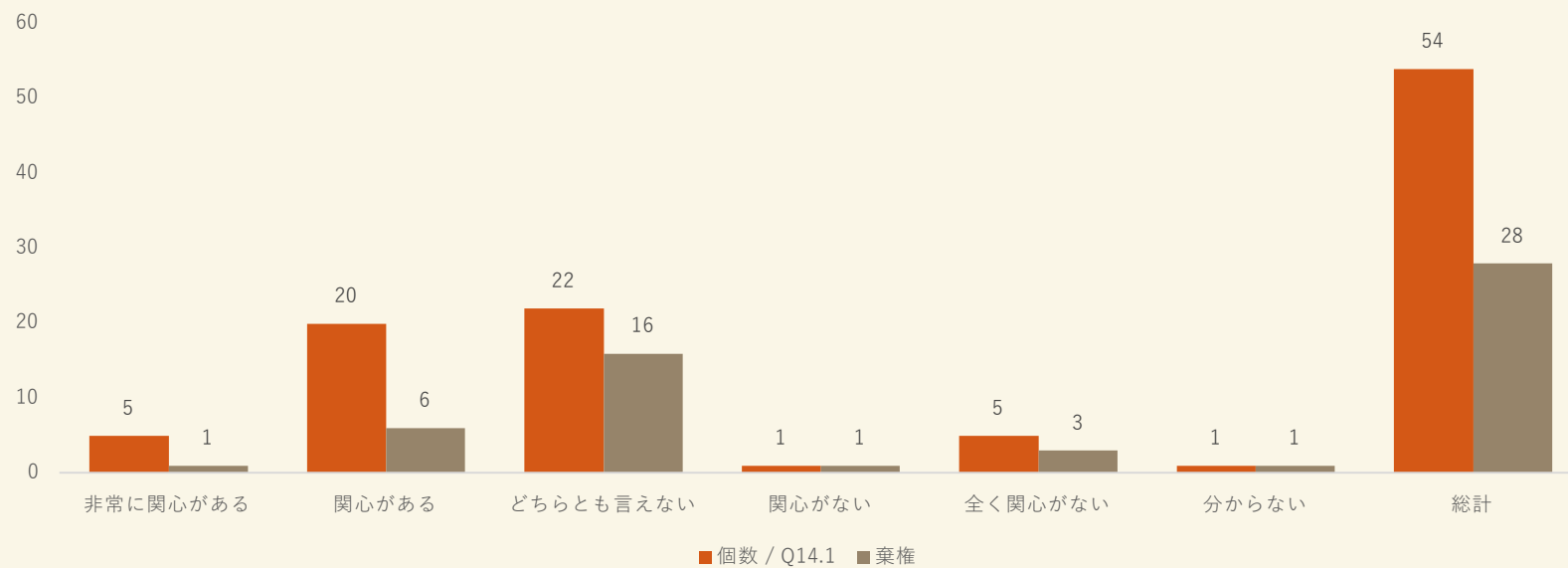


図6

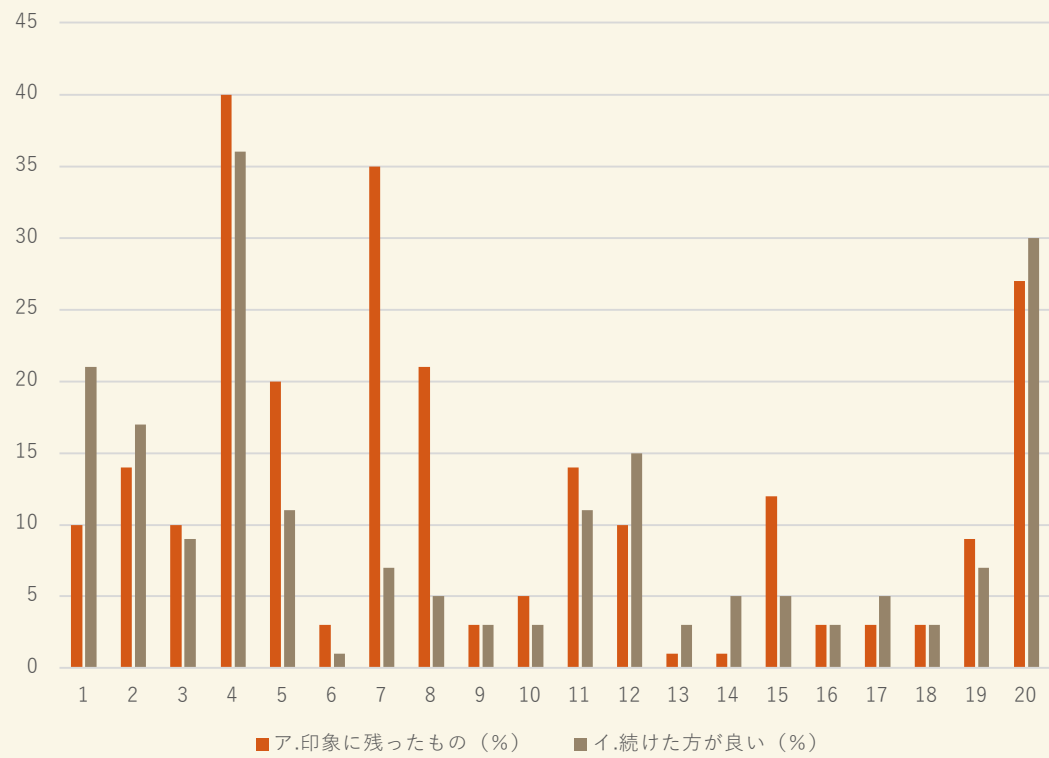


図7

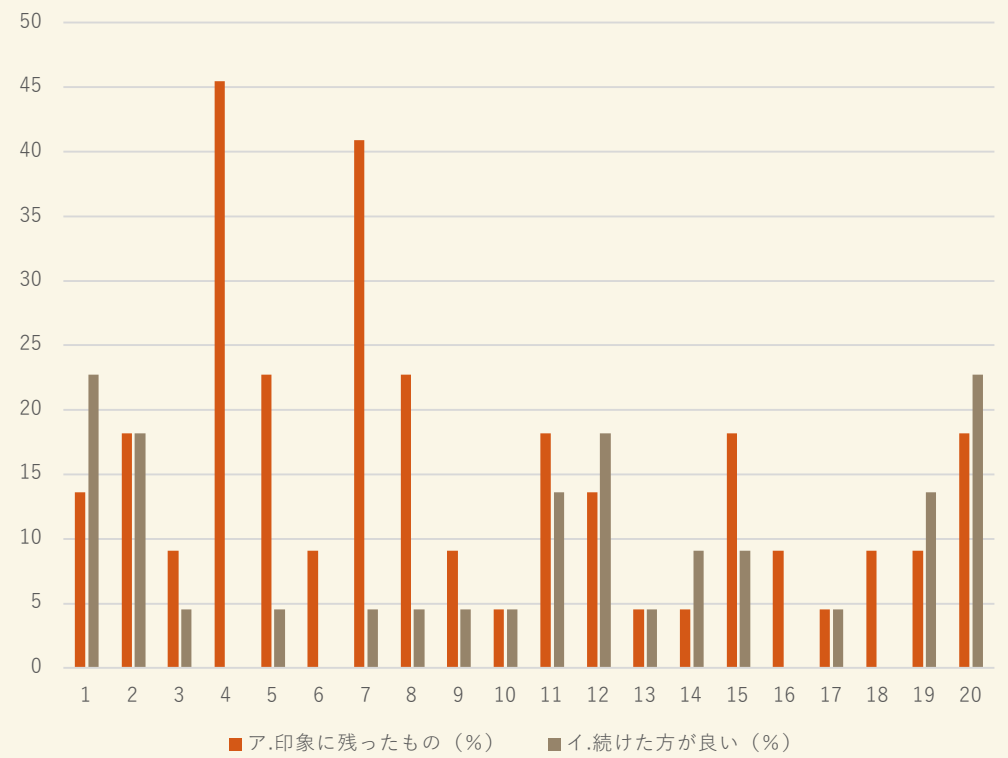
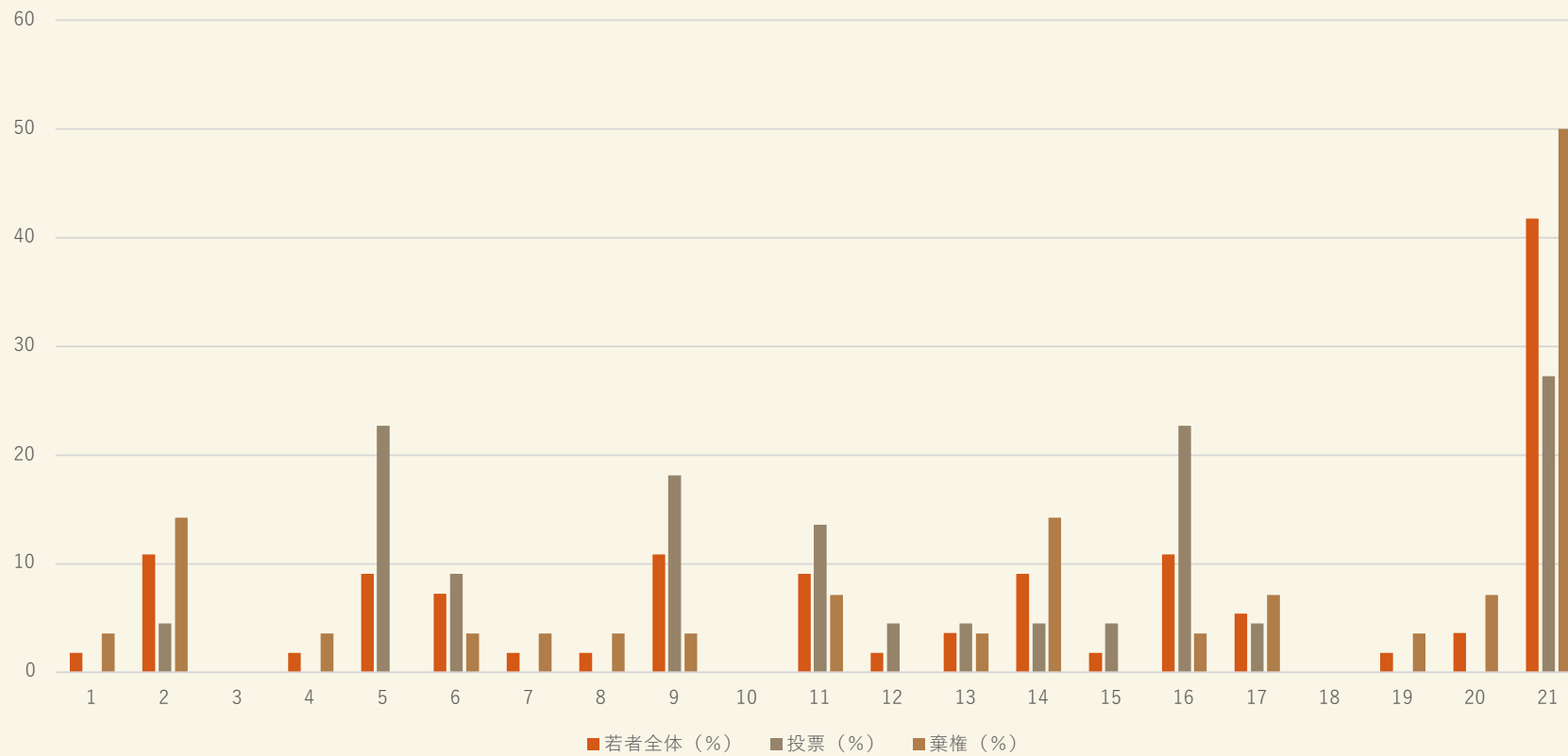


图 8





## まとめ

---

自ら自主的に情報を集めるようにするには？



従来の方法では関心を高められない



双方向性のある政治活動を行う

ご静聴  
ありがとうございました

## ～若者の投票率低下の原因とその改善～

法学部一回生

・はじめに

私は政治に関して強い関心を持ち、日頃からニュースを見聞きし、今年行われる予定の衆議院議員総選挙に注目していることから、選挙問題について強い興味を持っている。

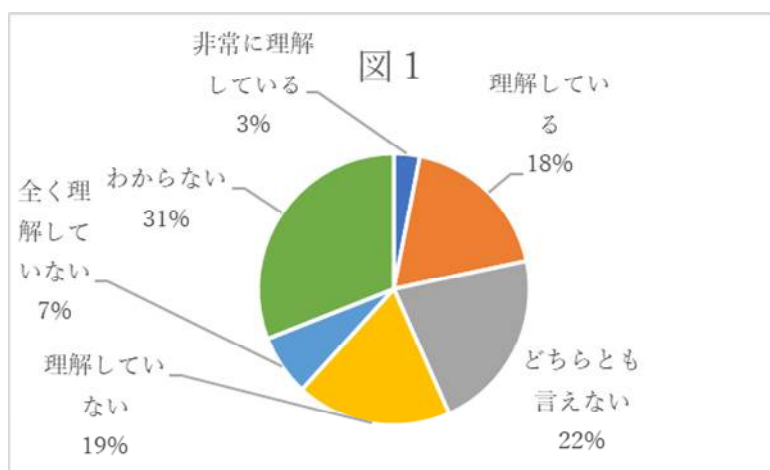
そんな中で、若者の投票率が低いことが問題になっていることを知り、その原因およびその改善方法を考えてみることにした。

まず、日本に住む若者の一人として私は現行の政府および政治家を信用しておらず、大量の赤字国債や地球温暖化、政治家の汚職事件などの様々な将来への懸念事項が放置されたままであることから大変不安を持っている。

このことから、若者の投票率の低さの原因の一つに選挙をして誰が議員や知事などになったところで何も変わらないという一種の諦観にも似た政治不信があるのではないかと考える。

この考えを下記で検討したいと思う。

### 1 若者の政治への関心について



上の円グラフ「図1」は合計 55 人の 30 代未満の人の市会議員が住民の要望などを理解しているかどうかを聞いたアンケートをまとめたものである。

私がこのグラフの中で特に注目するのは理解していると断言できる割合の少なさである。

「非常に理解している」が 3%、「理解している」が 18% の計 21% であり、残りの 79% は自らの市会議員のことについて知らないもしくは「支持者の声を聞く」という市会議員の自分を果たせていないと思っていることが分かる。

次に市町村の政治の信頼度について見ていきたいと思う。

(図2)

合計/ 問3	非常に理解している	理解している	どちらとも言えない	理解していない	全く理解していない	わからない	合計
非常に信頼できる	2	0	0	0	0	0	2
信頼できる	0	16	0	8	0	24	48
どちらとも言えない	0	4	30	24	5	48	111
信頼できない	0	0	3	4	10	0	17
全く信頼できない	0	0	0	2	0	6	10
わからない	0	0	3	0	5	18	26
合計	2	20	36	40	20	96	214

上のグラフ「図2」は問3の市議員に関する質問と問24のアの市町村の政治に対する信頼度に関する質問を30歳未満の回答者に絞った3重クロスグラフである。

このグラフからも市議員および市町村の政治を「(非常に)理解している」かつ「(非常に)信頼できる」と答えたのは合計で18人、すなわち全体の8.4%であることからプラスの意見を持つ人が少ないことが分かる。

しかし、だからと言って決して「理解していない」や「信頼できない」という数値が大きいわけではないこともまた、同様に分かる。

なぜなら「(全く)理解していない」かつ「(全く)信頼できない」と答えた人は合計で16人、すなわち全体の7.4%であるからだ。

また、「どちらとも言えない」または「分からない」をどちらか片方だけでも選んだ人は61%以上であることから過半数を占めていることが分かる。

(図3)

合計/ 問3	非常に理解している	理解している	どちらとも言えない	理解していない	全く理解していない	わからない	合計
非常に信頼できる	2	0	0	0	0	0	2
信頼できる	0	4	0	4	0	6	14
どちらとも言えない	0	0	15	16	0	24	55
信頼できない	0	0	3	0	5	0	8
全く信頼できない	0	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	6	6
合計	2	4	18	20	5	36	85

(図4)

合計/ 問3	非常に理解している	理解している	どちらとも言えない	理解していない	全く理解していない	わからない	合計
非常に信頼できる	0	0	0	0	0	0	0
信頼できる	0	10	0	4	0	18	32
どちらとも言えない	0	4	15	8	5	24	56
信頼できない	0	0	0	4	5	0	9
全く信頼できない	0	0	0	4	0	6	10
わからない	0	0	3	0	5	12	20
合計	0	14	18	20	15	60	127

上の2つのグラフのうち、「図3」は図2を、問8を参考に市議員選挙において投票した者で絞った四重クロス統計であり、「図4」は図2を、問8を参考に市議員選挙において投票を棄権(問8-6「忘れた・覚えていない」は含めず)した者で絞った四重クロス統計である。私は大きな注目点が3つあると、この2つを比較すると考えている。

1つ目は「(非常に)理解している」かつ「(非常に)信頼できる」と「図2」で答えた人のうち、55.5%すなわち約過半数の人は投票を棄権しているということだ。これによって市議員や市町村にプラスイメージを持っているからといって投票に行くとは限らないことが分かる。

2つ目は「(全く) 理解していない」かつ「(非常に) 信頼できない」と「図2」で答えた人のうち、81.25%の人は投票を棄権していることが分かる。

3つ目はいずれかの「どちらとも言えない」を選んだ人たちは45人対54人、すなわち約半分・半分で投票と棄権に分かれていることだ。これは1つ目のポイントの際に注目した箇所の投票率とさほど変わらない。

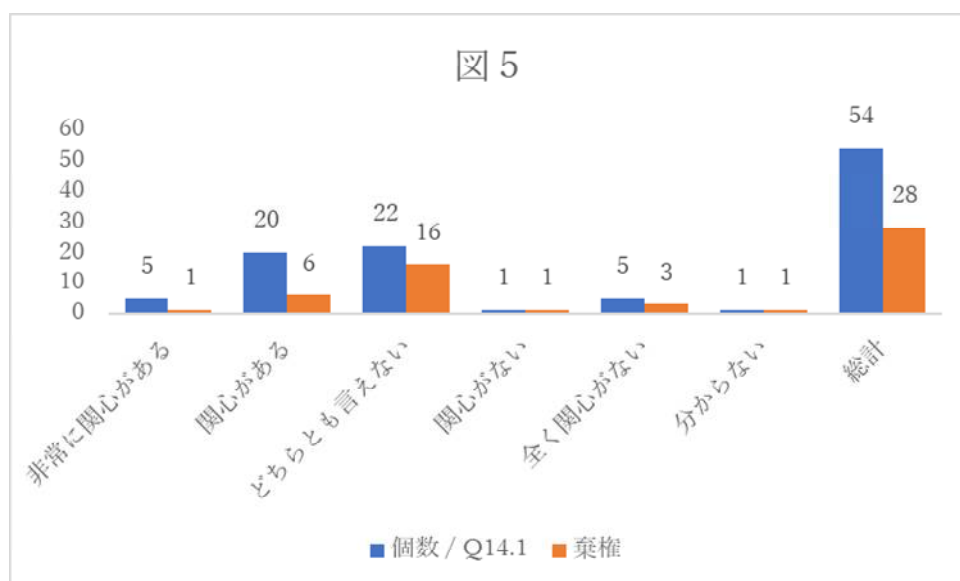
以上のことより、明確に市会議員と市町村の両方にマイナスイメージを持っている人とそうでない人で投票をしようかどうかには明確な差があるように考えられる。

つまり、ほとんどの若者は議員や政治に対して不信を抱いているのは事実であり、それでもその内の約半数は投票を行うということである。

これによって、私が最初に立てた「若者の投票率の低さの原因の一つに選挙をして誰が議員や知事などになったところで何も変わらないという一種の諦観にも似た政治不信がある」という仮説は政治不信を抱く若者のうち約半数は投票に行くことから半分正解であり、半分間違いであると言える。

## 2 若者の政治家への印象と投票率の関係性

次に、上記で述べた「どちらとも言えない」や「分からない」などの政治不信を抱き、投票を棄権した若者に注目したいと思う。



上のグラフ「図5」は問14-アの市の政治についての若者の関心の度合いを調査した二重クロス統計と「棄権」と銘打った先程の統計に加えて投票を棄権した者に絞った三重クロス統計である。

このグラフの「どちらとも言えない」場合、1の事例とは違って72%という高い割合で投票を棄権することがわかる。

また、関心がある場合のみ70%以上の高い投票率を持っていることも分かる。

以上より、関心の有無は議員や政治が信用できるかどうかよりも、投票をするかどうかを

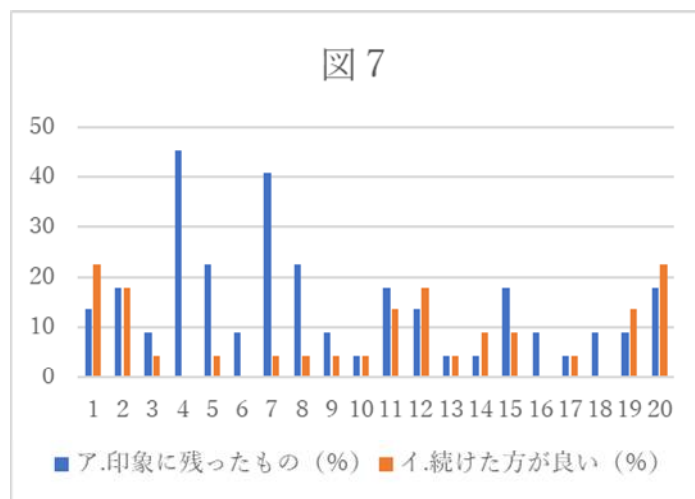
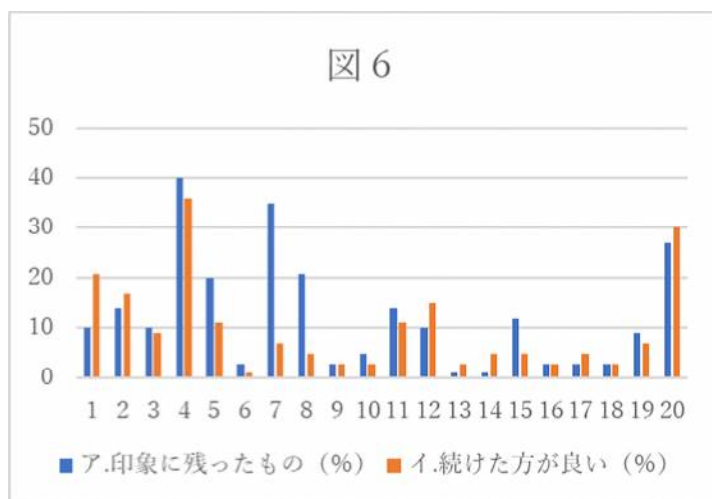
決める際の重要な要素であると考えられる。

従って、若者の政治の関心を高めることで投票率を上げることができると思う。

ではどうすれば若者の関心を高めることができるのかを検討していきたいと思う。

## 2-2 若者の関心を高めるには

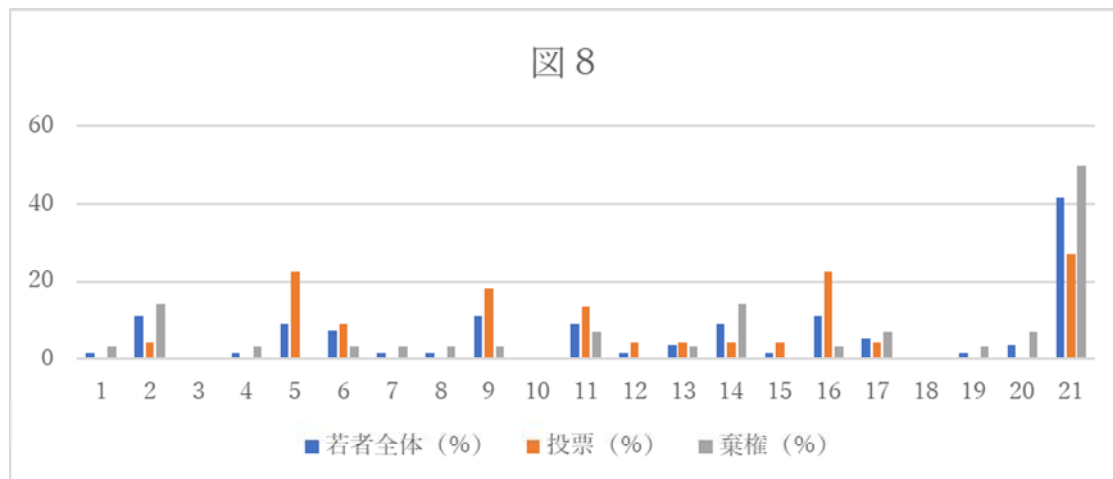
まず、私はどうすれば若者の政治への関心が高まるのかを検討するためにも、若者が選挙において何に関心を持ち、何をもちて投票するのかを決断するのかを分析したいと思う。



左上の「図 6」は問 6 の選挙委員会が行った様々な取り組みについての若者の印象などの二重クロス統計であり、右上の「図 7」は「図 6」を更に投票した者に限定した三重クロス表である。

これらによって分かることは 4 番の「選挙のお知らせ」はがき」と 7 番の「選挙管理員のポスター」、8 番の「選挙啓発宣伝車」そして「市民しんぶん」の啓発記事は選挙があることを有権者に思い起こさせていることだ。

また、4 番以外の 3 つは一定の成果を出しているのに続けた方が良いという主張の数が低いことから、選挙を思い起こさせてくれるが、宣伝車による騒音などの何かしら受け取り側にとって気に入らないことがあるとも考えられる。



上のグラフ「図8」は問10の、投票するかしないかなどを判断するのに役立ったものを選ぶ質問を若者に限定した上で、投票した者と投票を棄権した者に分けたグラフである。

このグラフから分かることは投票者と棄権者が何を見て投票の有無を決断したのかどうかの差異である。

例えば、投票者の20%以上は16番の「候補者・政党が開設するホームページ、ブログ、SNS」を見て決断に役立てたのに対し、棄権者は約3%である。

逆に棄権者は14番の14%以上が「テレビ・ラジオの選挙報道」を見て棄権を決断するのに役立てたのに対して、投票者は約4%のみがそれらの報道を見て投票の決断に役立っている。

また、14番と同様に2番の街頭演説もまた投票よりも棄権を決断するのに大いに役立てられていることが分かる。

しかし、投票者・棄権者の両者に共通して言えることとしてこれまでの政治家などによる選挙期間中の活動が21番の「どれも役立たなかった」という項目の数値が圧倒的に大きいことから40%以上の有権者に届いていなかったことが分かる。

これは「図6」および「図7」の「何も選ばれなかった」という21番目が大変大きいことから同様のことが言える。

つまり、現状の選挙活動では多くの若者にとって誰かに投票をしたいという意欲を作ることが難しいと言える。

以上の分析を踏まえて私なりにどうすれば若者の関心を高め、何れかの候補者に投票させることができるのかを考える。

まず、先に述べた「図8」の16番目の投票者と棄権者の数値の差異から、自ら自主的に情報を集めるかどうかの大きな隔たりが両者にあると私は考える。

ではどうすれば、棄権者と同じ層の人々が自ら情報を集めるほどの関心または意欲を抱くのだろうか？

最初に、私は「図8」の結果から従来の政治活動では今の若い世代に響いていないのではないかと考える。

そもそも、従来の方法というのを私は一方的な情報の通達だと考える。

街頭演説や政党のビラやポスターなどはあくまでも候補者やその政党が発信したいことしか伝えず、他の記載されていない問題に対する意見などは知ることができないのではないかと私は思う。

そのため、私は誰か一人がただ己の情報を提供するのではなく、情報が常に行き交い、更新されていく状況こそが若者の関心を高め、政治家の考えを可視化させ、結果として自らの一票を預けるに足る人物として認識することができると思います。

その具体的な方法として例えば、棄権者は「図8」の14番目の数値よりテレビ・ラジオを、情報を集めるツールとして使っていることから、街頭演説などの一方的に話す形ではなく、テレビ番組などで候補者同士による議論を行い、理想や机上の空論ばかりでなく、公約を達成するための確かな根拠を持っていることを多数の若者に示すことで、彼らが持っている政

政治家への不信感を拭い、そして候補者同士に主張の方向性の差を分かりやすい形で生むことによって有権者らがより分かりやすく共感のできる政治家を見つけることができると考える。

また、フランスのマクロン大統領がつい先日ワクチン接種証明書の提示を義務化したことに対して若者に理解してもらうために SNS のライブ機能を利用したように、誰も介さず自らが直接政治家に質問することができる機会を設けることも有効な手段だと考える。

従って私は若者の投票率向上のために行うべきことはディベートなどの機会による政治家の露出を増やし、根底にある政治不信を和らげることだと考える。